

| 豊田高専/平成27年度年度計画 | | 平成27年度実績報告(自己点検書) | 自己評価 |
|-----------------|--|--|---|
| | | <p>○教育理念・目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年8月30日開催の総務会議において、「豊田工業高等専門学校教育目標等に関する規程」の制定について審議を行った。 ・平成26年3月12日開催の教務委員会において、学校教育目標・学科教育目標・科目関連表の表現の統一及び内容変更の有無等について検討を開始した。 ・平成27年度第6回総務会議で教育理念・教育目標・教育方針・養成する人材像について見直しをし、教育理念を一部変更した。 | <p>一部見直しをした教育理念を、新たに学生便覧に記載し、学生へ周知するなど計画を上回り実施している。</p> |
| (1) 入学者の確保 | ①-1-1 豊田市ほか地域の校長会等に出向き本校の学校説明を行い、中学生の進学先の一つとしてアピールする。《1》 | 《1》6月26日に開催された豊田市小中学校校長会に校長が出向き、学校概要、出前授業、学校説明会、体験入学、オープンキャンパス等の今年度実施行事について、及び本校の教育システムへの理解周知を図り、進学先の一つとして選択されるようPRした。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| | ①-1-2 教員が愛知県及びその近隣市町村まで含めた中学校を対象に、主要校は毎年、その他の学校は2年に1度訪問し、本校の教育活動及び入学試験についての情報を提供する。《2》 | 《2》7月から9月にかけて、教員が県内約300校の中学校を訪問し、本校の教育活動及び入学試験についての情報を提供し、かつ情報収集を行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| | ①-1-3 新1年次学生が出身中学校を訪問するなどして学生の視点から見た本校の情報提供を行う。《3》 | 《3》6月から10月にかけて、約70名の1年生が、出身中学校を訪問し、学生の視点から本校の情報提供を行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| | ①-1-4 教員が中学校主催の進学説明会等へ積極的に参加し、情報提供を行う。《4》 | 《4》中学校主催の進学説明会(6校)に出向き、中学生及び保護者に本校の特徴及び入試情報等の説明を行った。また、中学校の総合学習の一環である上級学校訪問(2校)を受け入れ、施設見学等を通して本校の特徴について説明し、進路決定の参考となるようPRを行った。さらに、中学校主催の保護者を対象とした上級学校見学会を受け入れ、施設見学等をととして本校の特徴について説明し、進学先の一つとして選択されるようPRを行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| | ①-1-5 業者による私学対象の高校説明会などへも参加し、より多くの中学生に情報提供を行う。《5》 | 《5》昨年度に引き続き、愛知県私塾協同組合主催の保護者対象の高校説明会(9月27日)及び私塾講師対象の私立学校合同説明会(尾張(9月29日)及び三河地区(10月7日))に参加し、本校の特徴及び入試情報等について説明を行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| | ①-1-6 地域住民やメディア等へ積極的に本校の学校行事等について情報提供する。《6》 | <p>《6》以下のメディア等により、本校の行事等について情報が発信された。(『』はタイトル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『豊田高専生らが利用 廃業旅館 活かそう』(矢作新報:4/24) ・『豊田高専生 家造り挑戦』(中日新聞:5/27) ・『高専キャンプおいでん』(中日新聞:7/17) ・『豊田高専生が女子中学生講座 リケジョ仲間 増えて』(中日新聞:8/11) ・『豊田高専で親子体験 都市鉱山の金取ったよ』(毎日新聞:8/23) ・『“男社会”豊田高専で成長』(中日新聞:9/12) ・『こうよう祭(文化祭)についてPR』(地元ラジオ局FMとよた:10/24) ・『学校訪問企画 コミュニケーションの大切さを認識する』(ラジオ局ZIP-FM:11/16) ・『シリーズ全国高専めぐり第22回』(長岡技術科学大学広報VOS No.191:2016年1月号) ・『安藤豊三ニュースファイル 英語多読』(ラジオ局東海ラジオ:1/4) ・『豊田高専吹奏楽部第36回定期演奏会』(ケーブルテレビひまわりネットワーク:2/14) ・『ラジオ・ラフフィート「部ラボー」』(エフエムとよた:3/21(月) - 25(日)18:40-18:45 計30分 3/26(土)18:05-18:30 総集編) | <p>本校所在地の自治区にお願いし各世帯へこうよう祭(文化祭)等の学校行事の案内を配付するなど積極的に広報し、参加していただいた。また、地元のケーブルテレビ等各種メディアへ積極的に情報発信するなど、計画どおり実施している。</p> |
| | ①-2-1 中学生を対象とした各種コンテストを実施する。また、小学生やその保護者をも対象として、本校への理解と関心を深める施策を実施する。《7》 | 《7》公開講座において、中学生向けの2講座コンテストを実施し、44名の参加を得た。課題:本校の夏休みが8月から9月下旬となり、8月に本校体験入学などの入試イベントが集中するため、公開講座実施時期と重なり、調整が難しくなっている。 | ○ 中学生対象の理科コンテストの開催及び体験入学を新たに実施するなど過密スケジュールにもかかわらず、計画どおり実施している。 |
| | ②-1 愛知県及び隣接県の中学生、保護者及び中学校教諭を対象に学内外で行う「学校説明会」を延べ10以上の会場で実施し、本校の特色、入試情報(マークシート方式の採用)、及び「オープンキャンパス」の説明をする。《8》 | 《8》昨年度に引き続き、愛知県及び隣接県の主な中学校の生徒、保護者及び中学校教諭を対象に学内外で行う「学校説明会」を6月から11月にかけて11会場で実施(参加者数577名)し、本校の特徴及び入試情報等の説明を行った。また、体験入学、オープンキャンパス及び文化祭の際に、個別相談を主体にした進学相談コーナーを設けた。 | ○ 開催時期及び開催場所の見直しをしながら、計画どおり実施している。 |
| | ②-2 昨年度台風により中止となった中学3年生を対象とした「体験入学」を再度企画・実施し、その際、女子の在校生、卒業生及び女性教員による女子中学生向けの高専女子講座を行う。《9》 | 《9》8月8日に中学3年生を対象に「体験入学」を実施(参加者数577名)し、学科別の体験授業等を行い本校の特徴をPRした。また、女子の在校生、卒業生及び女性教員による高専女子講座を行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |

| 豊田高専/平成27年度年度計画 | 平成27年度実績報告(自己点検書) | 自己評価 |
|---|--|--|
| ②-3 女子学生の受け入れ増のため、受入れ体制の整備を行うとともに、女性教員の採用推進に努める。さらに、増員した女子寮のPRを行う。これに加え、通学生が安心して通学できるよう、通学路の安全性を引き続き確保する。《10》 | 《10》4月に一般学科で1名女性教員を採用した。学校説明会やオープンキャンパス等において、特に女子寮については、安全対策(セキュリティの強化として二重ロック、防犯カメラの設置、及び寮母の設置等)を充実させている旨の説明を行っている。正門付近の公道(歩道)に横断歩道が一部ない箇所があり、安全確保のため、10月20日に豊田市及び豊田警察署に当該箇所の横断歩道の整備を要望した。 | 女性教員の採用等概ね計画どおり実施している。 ○ |
| ②-4 高専女子フォーラム等の機会を利用し、女子学生志願者増に取り組む。《11》 | 《11》機構が作成した「平成27年度版キラキラ高専ガールになろう」というリーフレットを学校説明会やオープンキャンパス等において積極的に女子中学生に配布した。また、8月10日に対象を中学生の女子に限定した公開講座「女子中学生のための女子学生による講座」を実施した。 | 計画どおり実施している。 ○ |
| ③-1 入学案内、PRリーフレット、オープンキャンパスチラシ及び学科の紹介誌等を作成し、中学校等へ配布するとともに、各種行事においても本校ロボット等のデモンストレーションを実施し、参加者らにアピールする等の広報活動を継続する。《12》 | 《12》入学案内、PRリーフレット、体験入学・オープンキャンパスチラシ及び学科の紹介リーフレットを作成した。特にPRリーフレットについては、県内全中学校及び隣接する県外の一部中学校の3年生全員に配布いただけるよう送付した。また、体験入学・オープンキャンパスチラシについても、県内全中学校及び隣接する県外の一部中学校の3年生の全クラスに掲示いただけるよう送付した。さらに、オープンキャンパスについては、豊田市役所内にある記者クラブへのチラシ提供を行い、今年度のオープンキャンパスの参加者数は10月10・11日の2日間で合計835名であった。また、連携協定により豊橋技術科学大学のオープンキャンパスへ、本校ロボカップが展示し、本校ブースに延べ600名程度の来場者があった。 | 新たに体験入学を実施するなど計画どおり実施している。 ○ |
| ③-2 本校ウェブページを随時更新し、入試情報、教育活動状況及び進路状況等について掲載し、広く情報を公開する。《13》 | 《13》本校ウェブページを随時更新し、入試情報、教育活動状況等について掲載し、広く情報を公開した。また、進路状況については、各学科のウェブページで公開した。 | 計画どおり実施している。 ○ |
| ④ 推薦選抜における面接では、ものづくりに関する質問をするなど、引き続き本校の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるよう適切な入試を実施する。《14》 | 《14》推薦選抜の面接時に、ものづくりに関する質問をしたことで、本校の教育にふさわしい人材を選抜できた。また、平成28年度学力検査でのマークシート方式に対応するため、体験入学でマークシートを利用した講座を行い、中学生に説明した。さらに監督業務要領及び採点業務要領等を見直し、適切に入試を実施した。 | 計画どおり実施している。 ○ |
| ⑤-1 入学者の学力水準の維持に努めるとともに入学志願者数を維持するため、地元校長会、各中学校進路担当者、及び地元の進学塾が開催する入試説明会等を訪問し、県下の志願者動向に関する情報を収集・分析する。《15》 | 《15》6月26日に開催された市内小中学校校長会に校長が出向き、学校概要及び今年度の学校説明会、体験入学及びオープンキャンパス等の行事のPRをし、本校の教育システムへの理解周知を図り、進学先の一つとして選択されるようアピールをした。また、7月から9月にかけて、教員が県内約300校の中学校を訪問し、本校の教育活動及び入学試験についての情報を提供し、かつ情報収集を行うとともに県下の志願者動向に関し入学試験実施委員会で分析を行った。さらに昨年度に引き続き、愛知県私塾協同組合主催の入学志願者及び保護者対象の高校説明会(9月27日)及び私塾講師対象の高校説明会(尾張(9月29日)及び三河地区(10月7日))に参加し、本校の特徴及び入試情報等について説明を行った。 | 計画どおり実施している。 ○ |
| ⑤-2 機構から周知される事例を検討し、実施できるものから実施する。《16》 | 《16》機構が作成した「平成27年度版キラキラ高専ガールになろう」というリーフレットを学校説明会やオープンキャンパスにおいて積極的に女子中学生に配布した。また、体験入学では、女子の在学学生、卒業生及び女性教員による高専女子講座を行った。中学生やその保護者に「高専」及び「ものづくり教育」を理解してもらうために、機構から配布された高専紹介用のDVDを学校説明会、体験入学及びオープンキャンパスの会場で放映した。 | 計画どおり実施している。 ○ |
| 2)教育課程の編成等 ①-1 学科の構成・改組等については、当面変更せず、モデルコアカリキュラムに基づいたカリキュラムの修正を検討する。また、引き続き、社会情勢の変化等に対応した専攻科の在り方等を不断に検討するとともに、外部有識者等の意見を積極的に取り入れる。《17》 | 《17》モデルコアカリキュラムに基づく新カリキュラムを構築した。来年度の1年生から適用する。とよたイノベーションセンターの活動を通して、豊田市・豊田商工会議所・地域のものづくり企業各社から社会の意見を吸い上げ、社会情勢の変化に対応した専攻科のあり方を検討した。また、JABEE(日本技術者教育認定機構)の審査を通して、学会から派遣された審査員(大学・産業界の有識者)の意見を取り入れた。年度末(3月30日)に「とよたイノベーションセンター推進協議会」を開催し、大学・産業界のトップクラスの方から評価・アドバイスを受けた。 | 必修科目、選択必修科目等の精査をし、新カリキュラムを決定実施するなど、外部有識者の要請を取り入れ計画どおり実施している。 ○ |
| ①-2 教育改善推進室が実施する授業改善に関するアンケート等の資料を基に、各教員が自己評価を行い次年度以降に役立てる。《18》 | 《18》前期は7月に授業改善に関するアンケートを行い結果をとりまとめ各教員へ報告した。また、対応策は各教員において学生へフィードバックを行い、以降の授業改善の資料とし、校長へ報告書を提出した。なお、それらの結果はファイルにし各学科・学生へ公開した。後期は2月に授業改善に関するアンケートを行い、結果をとりまとめ3月のはじめに各教員へ報告した。その後対応策を各教員から提出いただき、その結果を報告書にして校長へ提出した。学生へのフィードバックは次年度の1回目の講義の際に各教員が行い授業改善に役立てる。 | 学生からのアンケート結果及び学生からの要望等を教員に提示し、学生へのフィードバックは次年度の1回目の講義の際に各教員が行うなど、計画どおり実施している。 ○ |
| ①-3 専攻科のさらなる充実に向け、社会や産業界のニーズを踏まえたPBL型教育をカリキュラムに組み込み、自治体や企業と連携した「共同教育」として、その推進を図る。《19》 | 《19》本校並びに豊田市及び豊田商工会議所が連携し設置したとよたイノベーションセンターの教育プログラムの一つである「一気通観エンジニアの養成プログラム」において、専攻科生を参加させ、地元企業技術者との混成チームでのPBL教育を実施した。1月27日には、地域のものづくり企業や自治体の関係者を招き、「ものづくり一気通観修了式」及び「成果報告会」を実施した。さらに、今年度から、本科においても、地元企業(自動車部品メーカー)に半年程度学生を派遣し、企業技術者と共同しながら、企業内での問題解決を行う教育プログラムを新規に開講し、2月2日に開催した「成果報告会」では、参加した4名の受講生によるプレゼンテーションと質疑応答を行った。また、受入企業社長と本校校長始め、双方の関係者が一堂に会して、共同教育の在り方について議論を交わした。 | 専攻科生が実際の会社で現場を熟知している企業技術者と共同でプログラムに参加することで、より実践的な技術者の養成ができた。 さらに、本科においても企業と連携したPBL型教育を新たに実施するなど計画を上回り実施している。 ◎ |
| ②-1 機構が実施する学習到達度試験を第3学年全員に受験させ、学力の定着度を把握する。《20》 | 《20》昨年度の到達度試験の結果をもとに、全国平均との比較、平均値の経年変化、学科別、領域別正當回答率を教務委員会において分析した。1月14日に第3学年全員を対象として学習到達度試験を実施した。 | 計画どおり実施している。 ○ |

| 豊田高専/平成27年度年度計画 | 平成27年度実績報告(自己点検書) | 自己評価 |
|---|---|--|
| ②-2 年2回TOEIC-IP団体受験を学内で実施する。10月上旬に実施する試験では、本科第3学年及び専攻科1年次の学生に対し、全員受験を義務付ける。更に、英文多読・多聴を全学科で実施し、英語力の向上を目指す。《21》 | 《21》年2回TOEIC-IP団体試験を学内で実施した。1回目は本科第3学年及び専攻科第1学年の学生全員に受験を義務づけたもので、9月26日に行い、279名の学生が受験した。また、12月19日に2回目を実施し、77名の学生が受験した。更に、全学科で英文多読・多聴を実施し、英語力の向上を目指した。 | ○ 計画どおり実施している。TOEICの点数が着実にアップしているなど、英語力の向上に繋がっている。 |
| ②-3 TOEIC、実用英語技能検定、工業英語能力検定等の資格取得を奨励し、実践力の強化を引き続き図る。また、TOEIC、実用数学技能検定については、学内団体受験を引き続き、年2回実施する。《22》 | 《22》4月から、実用英語技能検定等の資格取得を奨励する資料を教室に掲示した。学内団体受験については、6月21日に1回目の実用数学技能検定(56名受験)を行い、12月5日に2回目の学内団体受験(134名受験)を行った。TOEIC-IP試験は9月26日に1回目(279名受験)を行い、12月19日に2回目の学内団体受験(77名受験)を行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ③-1 教育改善推進室が中心となって、平成21年度から実施し蓄積された、卒業生、企業、大学、本科5年生(卒業時)、及び専攻科2年生(修了時)を対象に、本校の教育内容、学生生活、及び今後の教育の方向性についてたずねたアンケート結果を集計分析する。《23》 | 《23》卒業生、企業、大学、本科5年生(卒業時)、及び専攻科2年生(修了時)を対象に、本校の教育内容、学生生活、及び今後の教育の方向性についてのアンケート調査を1月から2月の間に実施し、集計結果の分析を実施している。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ③-2-1 結果を全教員へ公開するとともに教員への改善提案を行う。《24》 | 《24》3月に教育改善推進室委員会を経て公開した。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ③-2-2 教員と学生との対話会を実施し、得られた情報等を全教員へフィードバックする。《25》 | 《25》今年度の教員と学生との対話会は日程調整の結果、学生会の役員改選後新旧役員をまじえ1月19日に行った。フィードバックのため報告書はデスクネットに掲載した。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ③-3 運営諮問委員会を平成27年度末に実施する。《26》 | 《26》運営諮問委員会を1月28日に開催し、外部委員から貴重な意見等をいただいた。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ④ 全国高等専門学校体育大会、同ロボットコンテスト、同プログラミングコンテスト、同デザインコンペティション、同プレゼンテーションコンテスト、高体連の大会及び文化系クラブの外部大会等に学生が積極的に参加できる体制作りを行う。前学期定期試験期間の変更にもない、同期間中の平日に高体連や高野連等の大会に学生を参加させるためのガイドラインを示す。《27》 | 《27》外部コーチの委嘱による日常の技術指導のみならず、必要な部には課外活動指導員を非常勤雇用し、日常の練習指導だけではなく休日の練習試合及び各種大会等への引率指導も可能とし、様々な大会に参加しやすい体制づくりを実施した。また、教育後援会からの活動旅費の援助について、支給基準に基づき運動系クラブ及び文科系クラブの両方に実施している。さらに、定期試験期間中に開催される高体連や高野連が主催する公式試合への参加について、特別欠席又は追試を申請できる旨周知した。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ⑤ 学生にボランティア活動や自動車関連ものづくり講座、自然体験活動等の様々な体験活動へ積極的に参加できるよう情報発信し、特に夏季休業等長期休暇を有効に利用し参加するよう引き続き、指導する。《28》 | 《28》学生にボランティア活動や自動車関連ものづくり講座、自然体験活動等の様々な体験活動へ積極的に参加できるよう情報発信し、特に夏季休業等長期休暇を有効に利用し参加するよう引き続き、指導する。 | △ 学生が地域のコミュニティ活動へも積極的にボランティア参加するなど計画どおり指導したが、目に見える参加者増にはつながらっていない。 |
| 3) 優れた教員の確保 ③ 優れた教員の確保 ① 科学技術振興機構の研究人材ポータルサイトに登録するとともに、全国の高等専門学校及び大学に教員公募に関する周知を行う。公募制を積極的に導入し、全国から多様な背景を持つ有能な人材の確保に努める。《29》 | ③ 優れた教員の確保 《29》科学技術振興機構の研究人材ポータルサイトに登録するとともに、全国の高等専門学校及び大学に教員公募に関する周知を行っている。公募制を積極的に導入し、全国から多様な背景を持つ有能な人材の確保に努めている。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ② 「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、派遣者推薦及び受入要望を積極的に行う。また、大学・企業等との人事交流制度等について、引き続き検討を行う。《30》 | 《30》「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、1名受入れを行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ③ 専門科目担当教員(一般科目の理系教員を含む)は、博士の学位又は技術士等の資格を有することを採用要件とする。また、一般科目担当教員(文系)は、修士以上の学位を有していることを採用要件とする。《31》 | 《31》専門科目担当教員(一般科目の理系教員を含む)は、博士の学位又は技術士等の資格を有することを採用要件とし、一般科目担当教員(文系)は、修士以上の学位を有していることを採用要件としている。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ④-1 女性教員の積極的な採用に向けて、「能力等が同等であれば積極的に女性を採用する方針である」旨を公募文書に明記する。《32》 | 《32》女性教員の積極的な採用に向けて、「能力等が同等であれば積極的に女性を採用する方針である」旨を公募文書に明記している。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ④-2 男女共同参画推進室が中心となり、女性教員の働きやすい環境の整備に向けて、必要な制度や支援策について検討を行う。また、検討した内容について、全教職員へ周知を図る。《33》 | 《33》3月開催の機構本部主催男女共同参画推進協議会での情報収集を基に、女性教員が働きやすい職場環境の整備のために、必要な方策について、今後男女共同参画室にて検討を行う。また今後の参考とするため、女性教員が置かれている心理的側面も含めた現状把握のための調査の実施や、男女共同参画について先進的な近隣の大学への訪問調査の実施を検討している。 | △ やや計画どおりではなかった。 |
| ④-3 女性教員採用に伴う特別経費配分制度等を積極的に活用する。《34》 | 《34》女性教員採用に伴う特別経費を活用し、女性教職員のキャリアアップ推進や環境整備に係る事業を実施した。具体的には研修等への参加、トイレ窓ガラスへのフィルム貼付け、更衣室のロッカー整備を行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ⑤-1 教員の能力向上を図るため、近隣大学等が実施するFDセミナー、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修、企業や技術士会等を利用した教員を対象とする能力向上に資する研修へ積極的に参加させる。また、引き続き新任教員に対して年度早々に研修を実施する。《35》 | 《35》FDセミナー・シンポジウム・研修へ教員を派遣している。また、新任教員に対して年度はじめに本校において研修を実施し、本校の方針ならびにシステムの周知を行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ⑤-2 教育改善推進室において、昨年度まで行ってきたFDシンポジウム・セミナーを継承し、更なる本校の特徴を踏まえた教材選択や教育方法の開発について検討するとともに、教授法について情報交換を行う。《36》 | 《36》教育改善に関わる書籍の購入を行い貸し出しできるようにしている。また、小セミナーを開催することで教育方法の開発について検討や教授法について情報交換を行っている。ICTツール導入に向けた検証や、授業手法支援ツールの充実を企画している。 | ○ 計画どおり実施している。 |

| 豊田高専/平成27年度年度計画 | 平成27年度実績報告(自己点検書) | 自己評価 |
|--|---|--|
| ⑤-3 FDセミナー等を開催し、更なる教育の質の向上を図る。《37》 | 《37》日程調整が難航し、FDシンポジウムの開催日が年度をまたぐこととなったが、5月25日に開催する予定である。 | △ 計画どおりではなかった。 |
| ⑥ 本校教員顕彰規則に基づく「教員顕彰委員会」において、教育活動、研究活動、学生指導、社会貢献及び学校運営に顕著な功績が認められる教員を選考し表彰する。《38》 | 《38》本校教員顕彰規則に基づく「教員顕彰委員会」において、教育活動・研究活動・学生指導・社会貢献・学校運営に顕著な功績が認められる教員を5名選考し、内2名を機構へ推薦した。推薦した2名は機構より理事長賞及び優秀賞に選考された。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ⑦-1 教員に国内外の大学等で研究・研修する機会を設ける。《39》 | 《39》研修案内がきたものについては、教員に周知又は斡旋している。 | △ やや計画どおりではなかった。 |
| ⑦-2 教員の国際学会への参加を促進する。《40》 | 《40》教員の国際学会等への参加をサポートし、延べ21名の教員が15カ国で開催された国際学会・会議等に出席した。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| (4)教育の質の向上及び改善のためのシステム | ① モデルコアカリキュラム(試案)を踏まえたカリキュラム・授業内容見直しへの計画を次のように実施する。 関係部署と連携をとり、モデルコアカリキュラム(試案)を踏まえたカリキュラムを策定し、教育改善推進室において資料の選定・保存・保管を行う。また、昨年度の検討事例を踏まえ、教育改善推進室員によるアクティブラーニングに向けた機器の試用を行いデータ蓄積と検証を行うとともに、関係部署と連携し、ルーブリック等による学生の到達目標を設定した授業内容見直しと授業実践の周知を行う。《41》 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ②-1 全学科のJABEE認定教育プログラム(5プログラム)の継続認定審査を、「一斉受審」方式により同一期間で受審する。《42》 | 《42》全学科のJABEE認定教育プログラム(5プログラム)の継続認定審査を、「一斉受審」方式により同一期間で受審し、認定された。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ②-2 実用数学技能検定、デジタル技術検定、CAD利用技術者、電気主任技術者、測量士、宅地建物取引士等の資格取得を奨励し、実践力の強化を引き続き図る。《43》 | 《43》資格取得を奨励する資料を教室に掲示し、6月21日に1回目の実用数学技能検定の学内団体受検(56名受検)を行った。12月5日に2回目の学内団体受検(134名受検)を行った。さらに、11月22日にデジタル技術検定の学内団体受検(56名受検)を行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ③ 学校の枠を超えた学生の交流活動を促進するため、全国の高専との学生会交流行事に積極的に参加させる。また、東海地区留学生交流会に参加し、他高専の外国人留学生との交流を図る。《44》 | 《44》8月20日～22日に、千葉県成田市において開催された全国高専学生会交流会に学生会役員が参加し、意見交換を行った。 12月23日～25日に、岐阜県高山市等において開催された東海地区国立高等専門学校外国人留学生交流会に7名の留学生が参加し他高専の留学生と交流を深めた。 さらに、3月19日～21日にかけて本校の学生会が主管となり、中部地区高専学生会交流会を実施した。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ④ 特色ある優れた教育実践例や取組事例を、「全国高専フォーラム」や、各種学協会の研究会・論文集等を通して公表する。《45》 | 《45》特色ある優れた教育実践例や取組事例として、「全国高専フォーラム」で教員2名が発表した。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ⑤ 平成26年度受審した機関別認証評価における評価結果を受け、外部評価対応委員会で対応策を策定する。それに基づいて、継続的な教育改善活動を行う。《46》 | 《46》平成26年度受審した機関別認証評価における評価結果を受け、外部評価対応委員会で対応策を策定すべく検討している。さらに、本年度JABEEの5学科同時継続認定審査の受審結果を踏まえ検討した。これらに基づいて、継続的な教育改善活動を実施している。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ⑥-1 第4学年で実施されている「校外実習」をインターンシップの一環と位置づけ、より多くの学生が夏季休業期間中に就業体験をすることができるよう昨年に引き続き実施方法の改善及び近隣企業への協力要請に努める。受け入れ企業先を多くするために、今年度から夏季休業期間を8月上旬から9月中旬に変更したので、その効果を検証する。《47》 | 《47》本科第4学年を中心にインターンシップに205名が参加し、就業体験した。参加者数は昨年度より25名増となった。夏季休業期間が変更されたことにより、参加者が増加したと思われる。インターンシップ受入企業への依頼文書の見直しにより、事務の改善を図った。 また、情報工学科は昨年と比べ、多数の近隣企業に対し協力要請を行い、受入企業数が3社増加した。 | ◎ 計画どおり実施している。単位認定に該当しないため、集計に上らない公募型等の参加者も年々増加している。 |
| ⑥-2 専攻科については、インターンシップの参加率を高めるよう引き続き努力する。専攻科においては、企業や自治体と連携した「共同教育」を実施し、その取組事例を公表する。《48》 | 《48》豊田市及び豊田商工会議所と連携した「協同教育」である「ものづくり一気通観エンジニアの養成プログラム」を実施しており、その取り組み事例は、本校ホームページや「とよたイノベーションセンター事業報告書」で公表するとともに、異業種交流展示会「メッセなごや2015」でもパネル展示を行った。 また、3月に開催された「とよたビジネスフェア」にも「出展し、本取り組みを地域企業にアピールした。さらに、本校は、愛知県が進めている「産業人材育成情報ポータルサイトの構築事業」に協力しており、当Webサイトが完成すれば(4月からサービス開始予定)、県内の幅広い層に情報を提供することができる。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ⑦ 専攻科において、企業技術者や外部の専門家と協働した教育体制の構築を図る。そのため、地元自治体の豊田市及び豊田商工会議所との連携強化に努める。《49》 | 《49》本校並びに豊田市及び豊田商工会議所が連携し設置した「とよたイノベーションセンター」で、本校が実施する教育プログラム「一気通観エンジニアの養成プログラム」に、専攻科生が参加し、地元企業技術者との混成チームでの教育を行った。 また、本科においても、企業の問題解決を行うプログラムに参加し、自動車関連及び住宅メーカにおいて、企業技術者の指導を受けながら、業務改善又は設計から住宅を販売するプログラムを実施した。 そのほか、豊田商工会議所の協力を得て、本校内において、様々な豊田市内企業を紹介するイベントを開催し、多くの学生が参加した。豊田商工会議所・豊田市が主催するビジネスマッチングイベント「とよたビジネスフェア」において、市ものづくり産業振興課及び本校ブースを隣接出展することにより、両者が連携した展示を実施し、多くの企業の訪問を得ることができた。 | ○ 計画どおり実施している。 |

| 豊田高専/平成27年度年度計画 | 平成27年度実績報告(自己点検書) | 自己評価 |
|---|---|-------------------|
| ⑧ 豊橋技術科学大学との連携協定に基づき、教員交流・出前授業・オープンキャンパス行事の相互参加などの連携事業を実施する。《50》 | 《50》豊橋技術科学大学との連携協定に基づき、お互いのオープンキャンパスへ相互出店した。また、教員交流事業を1月22日に本校で実施し、豊橋技術科学大学から8名の来校があり、授業見学、施設見学、懇談会等を実施した。 | 計画どおり実施している。 ○ |
| ⑨-1 「共同教育」について長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学を始めとし、高専も含め多数の学校との、「eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換に関する協定」により提供されるeラーニング科目を積極的に取り入れ、引き続き学生へ提供する。《51》 ⑨-2 学内向けWWWサーバにeラーニングシステムを構築し、情報教育センターの演習室を利用する科目を登録して、電子的な資料の配布や課題の提出を行う。また、情報工学科では、学科専用の50以上のコースを活用する。《52》 | 《51》eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換に関する協定により提供されるeラーニング科目を積極的に取り入れた結果、次のとおりであった。 【前学期受講生数】長岡技術科学大学:22名、【後学期受講生数】長岡技術科学大学:5名、九州工業大学:27名 外部の関連科目を学ぶ機会が増え、ICT教育による学習習慣が定着するのに寄与した。 《52》学内向けWWWサーバにeラーニングシステムを構築し、試行を行った。また、情報工学科においてはmoodleを使用して50以上のコースの活用を行った。 | 計画どおり実施している。 ○ |
| (5) 学生支援・生活支援等 ①-1 機構等が開催する教職員を対象とした学生のメンタルヘルスに関する講習会に積極的に参加するとともに、本校においても学生・教職員を対象としたいじめ防止対策をはじめとする学生指導等に関する講習会を実施する。 また、平成24年度に拡充した学生相談室を中心に学生のメンタルヘルスについての取組を強化する。《53》 | 《53》「全国大学保健管理協会東海北陸地方部会研究集会」「東海・北陸学生支援連絡会議」「高専メンタルヘルス研究集会」等に学生相談室長や看護師が参加し、情報交換を行った。 また「学校いじめ防止基本方針」を本校HPに公開するとともに毎年「いじめに関するアンケート」を実施している。 さらに、第1学年には学生相談室オリエンテーション、第2学年には「人間関係」の体験型講演会、第3学年には「こころを大切に」をテーマとしたカウンセラーによる各クラス毎の講演会及び性格テストを実施し、その結果を解説した。全学生を対象に「こころと体の健康調査」、1年生と3年生を対象に「UPI精神健康調査」を実施し、調査の結果、カウンセリングが必要と判定された学生は、学生相談室に呼び出しカウンセリングを実施している。 教職員に対してはメンタルヘルスをテーマにカウンセラーによる「障害者差別解消法の実施に向けての体制整備の取り組み」をテーマとして、講演会を実施した。 | 計画どおり実施している。 ○ |
| ①-2 1年次、2年次、3年次において、メンタルヘルスの基礎となる自発的なコミュニケーション能力の育成を意識させるなど学年に応じた目的達成のため合宿研修を引き続き実施し、高専生としての基本的な心構え、知識、体力及び生活習慣を身につけさせるとともに、学生、教職員の交流を図る。《54》 | 《54》第1学年の学生を対象に、高専生としての基本的な心構え、知識、生活習慣を身につけさせることを目的とした合宿研修(6月12日～13日(1泊2日))を実施した。 また、第2学年の学生を対象に自然とふれあう中での気力とスキー技術の向上を目的としたスキー教育(2月29日～3月2日(2泊3日))及び、第3学年の学生を対象とした交通安全の意識向上を目的とした交通安全教育合宿研修(3月23日～24日(1泊2日))をそれぞれ実施し、学生と教職員の交流も図った。 | 計画どおり実施している。 ○ |
| ②-1 教育研究に資する図書を選定して整備するとともに、空調設備、視聴覚機器、マルチメディア機器を引き続き整備する。他の図書館との情報交換を実施しながら、外部に開かれた図書館としてその役割を拡充し図書館の利用を促進する。《55》 | 《55》今年度の学科指定図書コーナーを整備及びブックハンティングを行い学生の意見を取り入れた蔵書整備も行った。英語多読図書の整備及びマルチメディア機器の整備として、CDプレーヤーを増やすなどした結果、一般利用者の利用率増加につながった。 また、図書館内の空調設備を改修し、より利用しやすい環境となつたばかりでなく、集中管理し空調エリアを細分化し省エネを図った。 東海北陸地区の高専図書館職務勉強会の場で情報交換を行った。 | 計画どおり実施している。 ○ |
| ②-2 寄宿舎新営による入寮定員拡充後の次の段階として、既設寮の改修整備、浴室増設などによる寄宿舎環境の質的向上について検討を進める。《56》 | 《56》寄宿舎環境の質的向上として、浴室環境の改善について検討を進め、営繕予算要求を行った。 | 計画どおり実施している。 ○ |
| ③-1 学生や保護者に各種奨学金制度の情報を積極的に周知する。その際、掲示、プリント配布、指導教員からの周知だけでなく、該当者には個別に情報発信し、積極的に周知するとともに、必要な説明会を随時実施する。《57》 | 《57》入学者オリエンテーション時に学生及び保護者へ日本学生支援機構等の奨学金制度について(プリント配布及び口頭説明により)案内を行った。 また、在校生には電子掲示板への掲示及び指導教員から募集案内を告知し、希望者については、随時、学生課窓口で個別に説明した。また、地方自治体が実施する奨学金制度案内についても電子掲示板等に掲示し、希望者については個別に学生課窓口で説明を行っている。 さらに、貸与満期を迎える学生に対して返還説明会を実施し、奨学金返還の重要性や延滞防止に向けた指導を行っている。 | 計画どおり実施している。 ○ |
| ③-2 創立50周年記念行事の一つとして設けた学生支援基金の活用を引き続き進める。《58》 | 《58》「豊田工業高等専門学校学生支援奨学金規則」を1月20日に制定し、本校学生支援基金を原資に、学生支援奨学金を設置した。 | 計画どおり実施している。 ○ |
| ④-1 学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や相談体制を見直し、進路検索システム利用の促進を図る。進路決定に向けてのキャリア教育支援プログラム(各種講座や面接指導)を有効に活用しながら学生の就職及び進学に関して進路指導を丁寧に行う。《59》 | 《59》キャリア教育支援プログラムにて、具体的な就職活動に向けてエントリーシートや履歴書の記入、ビジネスマナー等の研修講座を実施した。本校に届いた年間700件以上の求人票データを進路検索システムに入力し、就職活動をする学生の有益なデータベースとなるよう整備した。 さらに、学生談話室に進学情報コーナー及び求人情報コーナーを設け、大学から送付された学校案内や企業から送付された求人票をファイリングして学生が自由に閲覧できるようにした。 | 計画どおり実施している。 ○ |
| ④-2 キャリア教育支援室を中心に、低学年から学習意欲の向上・学生の進路選択・決定のための支援活動を組織的に行い、1年生から学年進行に応じた必要な行事、講演及び体験を計画的に実施する。同窓会との連携による模擬就職面接試験など実践的な就職活動の支援を行う。《60》 | 《60》キャリア教育支援室においては本科の各学年において、目標を定めて、段階的、組織的にキャリアを身につけさせる活動を行っている。 また、第1学年では合宿研修、第2学年では人間力講演会、第3学年では就職先調査発表会を行い、第4学年及び専攻科第1学年ではビジネスマナー講演会、履歴書作成、模擬面接の各講演会の本格的な就職準備に向けた講座を実施するほか、年度末には同窓会の協力を得て模擬面接講座を実施した。 | 計画どおり実施している。 ○ |
| (6) 教育環境の整備・活用 ①-1 施設環境整備委員会において、エネルギーの使用状況や施設の利用実態等を確認し、効率的な利用等の検討を行うとともに、キャンパスマスタープランに基づく整備計画の検討をさらにすすめる。《61》 | 《61》施設環境整備委員会が定期的にエネルギー使用状況を報告し、省エネを啓蒙した。また、施設の効率的な利用を推進するよう、今年度も共同利用スペースを一定数確保し有効利用するため公募を行い利用者を決めた。キャンパスマスタープランに基づく整備計画どおりに平成28年度校舎改修工事を行う。更に平成29年度の概算要求を行った。 | 計画どおり実施している。 ○ |

| 豊田高専/平成27年度年度計画 | 平成27年度実績報告(自己点検書) | 自己評価 |
|---|---|------------------|
| ①-2 図書館の空調機改修工事を行い、集中管理をできるようにして、省エネの充実を図る。《62》 | 《62》図書館の空調設備改修を行い、集中管理を出来るようにするとともに空調エリアを細分化し省エネの充実を図った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ①-3 老朽化したライフラインの整備計画の検討をすすめる。《63》 | 《63》校内の老朽化状況を踏まえたライフラインの整備計画を検討し概算要求を行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ②-1 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配布する。《64》 | 《64》新入生及び新任教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配布した。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ②-2 新入生及び新任教職員を対象に、「安全衛生に係る研修会」を実施する。《65》 | 《65》新入生については、1年合宿研修の際に、実験実習安全必携を元に安全衛生教育を実施し、新任教職員へは、4月上旬に行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ②-3 全学科において、学生を対象に安全衛生教育を実施し、報告書を作成する。《66》 | 《66》実験等を始める前に安全衛生教育を実施し、その報告書を安全衛生委員会に随時提出させた。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ②-4 教職員を対象に、安全衛生教育に係る講習会を実施する。《67》 | 《67》中央労働災害防止協会から講師を迎え12月1日に安全衛生講習会を行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ③ 男女共同参画推進室及びキャリア教育支援室が協力して、教職員あるいは学生を対象として、社会で活躍する女性講師を招へいた講演会やセミナーを開くなど具体的な活動を行う。 また、社会で活躍している女性起業者と本校女子学生による茶話会を開催し、本校女子学生の将来のキャリアを探る機会とする。《68》 | 《68》県内で活躍されているマナーマネジネットの講演を幅広く手がけている女性を講師として招へいし、第4学年及び専攻科第1学年の女子学生を対象に「就職直前女子学生セミナー」を12月16日に開催した。講演は講師を囲んでの茶話会形式で行い、女性社会人が直面している課題をテーマとした講演を行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| 2 研究や社会連携に関する事項 | ①-1 科学研究費助成事業応募のためのガイダンスを開催する。《69》 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ①-2 東海北陸地区の国立高専間において、各校の外部資金獲得状況等に関して、Web会議による定期的な情報交換を行う。《70》 | 《70》東海北陸地区高専において、定期的にコーディネータのWeb会議を実施し、本校からは地域共同テクノセンター長が参加した。今後は、ブロック化の流れもあり、テレビ会議を東海北陸の枠組みで継続するか検討が必要となっている。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ①-3 複数の高専で連携して、技術展示会への出展を企画・実施し、技術シーズの発信を行う。《71》 | 《71》東海北陸地区高専において、TechBiZEXPO及びエコプロダクツに出展を行い、技術シーズの発信を行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ② 地元自治体である豊田市と豊田商工会議所との連携組織である「とよたイノベーションセンター」を活用し、技術シーズの発信・技術セミナーの開催・技術相談等を通して、効果的な技術マッチングに取り組む。また、その成果を公表する。《72》 | 《72》とよたイノベーションセンターのセミナー等において、本校シーズ集を配布した。 | △ やや計画どおりではなかった。 |
| ③ 知的財産委員会を中心に、研究成果の知的資産化を促進する。また、平成25年度に構築された知的財産管理システムを活用し、知的財産関連業務の効率化を図る。《73》 | 《73》共同研究の成果として、発明届2件が提出され、特許として出願することとなった。特許料の納付期限となる特許3件(平成27年度 1件 平成28年度 2件)について継続のための特許料を納付した。 | ○ 計画どおり実施している。 |

| 豊田高専/平成27年度年度計画 | 平成27年度実績報告(自己点検書) | 自己評価 |
|--|---|------------------|
| ④ とよたイノベーションセンターを活用し、豊田市や豊田商工会議所と連携した広報体制を整備することで、教員研究や技術シーズに関して、効果的な情報発信を行う。《74》 | 《74》とよたイノベーションセンターのセミナー等において、本校シーズ集を配布した。 | △ やや計画どおりではなかった。 |
| ⑤-1-1 小中学校向けの出前授業や理科教室の開催を通して、子どもたちの理科教育支援を行う。また、小学生を対象に、ものづくり体験と科学理解の向上を目的に、全国から参加者を募る「とよた高専おもしろ科学教室」を開催する。《75》 | 《75》出前授業を述べ23件実施し、1554名の小中学生が受講した。愛知銀行と連携による共同企画「こども金融・科学教室」を11月28日に実施し、36名の小中学生が参加した。また、12月に「とよた高専おもしろ科学教室」を開催し、52名の小中学生が参加し、遠くは富山県からの参加者もあった。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ⑤-1-2 「廃棄物の適正処理と資源の有効活用」に対する市民意識の向上を目指して、親子参加型の体験イベント「小型家電リサイクル啓発イベント」を開催する。《76》 | 《76》経済産業省中部経済産業局と共催でイベントを開催し、18組36名の親子が参加した。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ⑤-2 公開講座の参加者の7割以上から評価されるように、内容の充実を図る。《77》 | 《77》アンケート調査を実施し、満足度が7割を越えた。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ⑥-1 同窓会組織等と連携し、卒業生の動向を把握し、卒業生による在校生のための講演会及び模擬面接講座などを開催するなど、引き続き卒業生とのネットワークの活用を図る。《78》 | 《78》同窓会と連携し、卒業生を講師に招いて在校生を対象とした講演会を11月25日に実施した。また、3月12日には同じく同窓会の協力を得て、企業等の人事担当を経験した卒業生を講師に招き、模擬面接講座を新5年生の希望者を対象に実施した。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ⑥-2 地域貢献として年5回、駅から本校周辺区域の清掃を環境美化活動の一環として実施する。《79》 | 《79》環境美化活動の一環として、5月・6月・10月・11月・1月に、本校最寄り駅から本校までの通学路周辺の清掃を行った。 また、学生会ならびに寮生会役員の学生が自治会主催の清掃活動やイベントにボランティアとして参加し、ごみ拾いやイベントの司会を行うなど地域に根ざした活動や活性化に向けた取り組みを積極的に行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ⑥-3 一般市民を対象とした「地域活性化マイスター講座」を開講し、エネルギーの地産地消を目指すことにより地域活性化と省エネルギーに貢献する。《80》 | 《80》9月にマイスター講座を開講し、中学生を含む11名の参加者があった。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ⑥-4 学生が主体となる活動「ドミタウン」プロジェクトを実施し、過疎化が進む山間地と都市部の住民の交流を行い、地域活性化に貢献する。《81》 | 《81》豊田市の中山間地域の一つである笹戸地区において、地元自治会の協力を得て、「ドミタウン」プロジェクトを実施し、8月には、豊田市市街地の小学生を集め、合宿を行った。参加した小学生及びその保護者からは、来年も参加したいとの要望があった。今回は、豊田市の支援があり活動することができた。次年度については、助成財団からの支援金交付決定を受け継続して活動できる見込みとなった。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| 3 国際交流等に関する事項 ①-1 他高専や大学と連携して学術交流状況の調査や海外視察を行うなど、海外学術交流や海外インターンシップに関する調査・検討を引き続き行う。また、本校の視察・見学を希望する海外の学生、技術者等を積極的に受け入れる。《82》 | 《82》本校に視察・見学の海外の技術者等に英語で施設案内ができるよう、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学及び高専機構が連携・協働した教育改革の一環として実施された機構の職員海外研修に本校技術職員1名が参加した。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ①-2 国際交流協定の締結に向けて、教員の海外の教育機関との学術交流を引き続き進める。《83》 | 《83》タイ王国カセサート大学の教員とのロボット開発の情報交換のため、電気・電子システム工学科の教員が指導する学生を8月～9月の2か月間、同大学へ派遣した。 また、豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構によるマレーシア科学大学での長期FDにより培った人脈により、環境都市工学科の教員が同大学教員との共同調査・研究を継続している。 さらに、ベトナム国University of Information Technology-ホーチミンでの英語多読教育を支援するために、電気・電子システム工学科の教員2名が同大学を訪問し、本校のこれまでの英語多読教育実践経験をもとに講演会及び模擬授業を行い、同大学と本校の学生とのWeb上での協同学習を開始し、協定締結に向けて協議を始めた。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ①-3 国際協力機構(JICA)のルワンダプロジェクトの国内研修を企画し、ルワンダの研修生を受け入れる。《84》 | 《84》7月に国際協力機構(JICA)のルワンダ国トゥンバ高等技術専門学校強化支援プログラムとして、同校の学校運営能力向上のため本校へ視察に訪れた研修員7名を受け入れた。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| ①-4 機構及び東海北陸地区高専で連携し企画する海外インターンシップに積極的に参加させ、帰国後に多くの学生を対象に報告会を開催し、より多くの学生へ意識付けを図る。また、文部科学省が企画する海外インターンシップを学生に周知し、参加が決まった学生への事前・事後の指導を行う。 さらに、留学経験のある社会人による本校の留学予定学生に向けた講演会を開催する。《85》 | 《85》8月～9月の間に、機構主催の海外インターンシップに2名、富山高専主催の海外インターンシップに2名の学生が参加した。3月には機構主催の海外インターンシップに1名の学生が参加した。 また、昨年度に機構主催の海外インターンシップに参加した学生1名が、7月に海外インターンシップ報告会に参加し、受入企業関係者や27年度参加学生等の前で発表を行った。 一方で、文部科学省が企画する海外インターンシップについては、案内がある都度指導教員を通じて学生に周知したが、今年度は応募者がなかった。 さらに、6月末には、留学予定学生向けのオリエンテーションの中で、留学経験のある本校卒業生(社会人)が講演した。 | ○ 計画どおり実施している。 |

| 豊田高専/平成27年度年度計画 | 平成27年度実績報告(自己点検書) | 自己評価 |
|--|--|---------------------------|
| <p>② 国際交流委員会を中心に、外国人留学生に対する支援及び学生の海外留学(海外奨学金情報を含む。)の支援を引き続き進める。 また、外国人留学生の居室整備などの環境整備を進める。 さらに、機構などが開催する国際交流担当者研修会に参加し、留学生教育の質向上を図る。《86》</p> | <p>《86》AFS/YFUによる1年間の長期留学希望者53名に留学の説明を行い、そのうち45名が留学選抜試験に合格した。短期留学では、豊田市によるイングランド・ダービシャー市英語研修派遣(2週間)に昨年度に引き続き第2学年の学生1名を推薦し、派遣が決まったなど次の活動を行った。 ・官民協働海外留学支援制度、トビタテ! 留学JAPAN奨学金の高校生第2期及び大学生第4、5期の説明会を実施し、高校生コース4名、大学生コース2名が応募した結果、タイ王国カセサート大学にて専攻科第1学年の学生1名が2か月間「ロボット制御技術に関する共同研究」に関する留学を行った。 ・熊本高専主催のシンガポールでの2週間の英語キャンプに1名が参加した。 ・外国人留学生の体力的および精神的健康を促進させ、チューターや教職員との交流のために、1か月に1回程度、国際交流委員会が主催するバドミントン交流を行った。 ・食堂、学生寮において食生活での支援・補助(食室に電子オープンレンジやハラール用冷蔵庫の設置)を行った。 ・7月に開催された「国際交流室・国際交流センター長会議」に出席し、他高専での外国人留学生への教員および生活支援、及び高専の国際化および留学についての情報収集を行った。</p> | <p>計画どおり実施している。 ○</p> |
| <p>③外国人留学生に日本の歴史・文化・社会・自然に触れさせる研修旅行を年1回実施するとともに、東海北陸地区留学生交流会に外国人学生を参加させる。《87》</p> | <p>《87》異文化の体験、外国人留学生とチューターとの情報交換及び親睦のため、那智勝浦の名所旧跡、伊勢神宮への研修旅行を実施した。また、10月17日から10月18日に東海北陸地区留学生交流会に外国人学生7名を参加させた。</p> | <p>計画どおり実施している。 ○</p> |
| <p>4 管理運営に関する事項 ① 校長裁量経費の計画的重点配分を行う。《88》</p> | <p>《88》5月26日の総務会議において、校長裁量経費を含む学内予算の配分を決定した。校長裁量経費として配分したうち、特に教育・研究の発展に寄与する「教員顕彰経費」、「学内ものづくり教育経費」は厳しい財政状況の中でも前年度水準の配分を行った。 また、1月に追加配分された校長裁量経費は、省エネ、教職員及び学生の安全・安心に配慮した施設改修や営繕工事を主とした事業を執行した。</p> | <p>計画どおり実施している。 ○</p> |
| <p>②地区高専校長会議及び昭和38年度校高専校長会議において情報交換をするとともに、ブロック校長会議で高専の在り方について検討を進める。《89》</p> | <p>《89》地区高専校長会議及び昭和38年度校高専校長会議において情報交換をした。ブロック校長会議で高専の在り方について意見交換した。</p> | <p>計画どおり実施している。 ○</p> |
| <p>③機構「業務マニュアル」を活用するとともに、本校「業務マニュアル」の充実と活用を促進する。《90》</p> | <p>《90》「災害・緊急事態対応マニュアル」を更新したほか、「危機管理マニュアル」及び「新型インフルエンザ等対応マニュアル簡易版」を新たに作成し、デスクネットに掲載し、活用を促進した。また、係内で共有している業務マニュアルの電子ファイルを随時更新し活用しているほか、機構「業務マニュアル」を併せて活用し、特に財務関係では高専機構の規則に基づいた会計処理を適正に実施した。</p> | <p>計画どおり実施している。 ○</p> |
| <p>④-1 機構が作成した「コンプライアンス・マニュアル」及び「コンプライアンスに関するセルフチェックリスト」を活用して、教職員のコンプライアンスの向上を行う。《91》</p> | <p>《91》新たに本校に採用された教員には、マニュアルを配布するとともに、全教職員が確認できるようデスクネットに掲載している。またセルフチェックリストを活用し、11月6日を期限とし、全教職員対象にセルフチェックを実施し、コンプライアンスの向上を図った。</p> | <p>計画どおり実施している。 ○</p> |
| <p>④-2 内部監査の強化及び外部監査におけるフォローアップを図る。《92》</p> | <p>《92》高専相互会計内部監査を受検し、監査結果に基づき、競争的資金に対する監査方法について謝金従事者に対するヒアリングを実施するよう見直しを行った。 また、内部監査、公的研究費内部監査を実施し、適正に執行されていることを確認し、さらに、全教職員を対象に開催した公的研究費の不正使用防止に係る研修会において、高専機構の取組や他機関における不正事例等の説明を行い、教職員の意識向上を図った。</p> | <p>計画どおり実施している。 ○</p> |
| <p>④-3 全教職員及び学生による防災訓練を引き続き実施し、災害発生時への現実的な対応を浸透させる。《93》</p> | <p>《93》10月29日に全教職員及び学生を対象とした防災訓練を実施した。この訓練では、より現実を想定して、地震の影響で放送設備が使用できなくなったこと及び一部経路が通行できなくなったものとして実施した。 また、一斉メールによる安否確認訓練を初めて実施し3月22日に自衛消防隊の訓練の一環として避難器具の取扱説明会を実施した。</p> | <p>計画どおり実施している。 ○</p> |
| <p>⑥「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」を踏まえた教職員対象の不正使用防止研修会を実施する。《94》</p> | <p>《94》「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」を踏まえた全教職員対象の不正使用防止研修会を9月に実施した。研修実施内容の理解度を把握するため、理解度測定も行った。また、10月以降採用及び転入者は別途補講を実施した結果、100%の受講率となった。</p> | <p>計画どおり実施している。 ○</p> |
| <p>⑦-1 事務職員や技術職員に能力の向上を目指した文部科学省、国立大学法人、社団法人国立大学協会、企業、地方自治体などが主催する研修会に積極的に参加させる。《95》</p> | <p>《95》事務職員や技術職員に能力の向上を目指した文部科学省、人事院、国立大学法人、社団法人国立大学協会、企業、地方自治体などが主催する研修会に積極的に参加させている。</p> | <p>計画どおり実施している。 ○</p> |
| <p>⑦-2 引き続き新任職員に対しては、年度早々に新任職員研修を行い、その他必要に応じて業務に関係する各種研修を行う。《96》</p> | <p>《96》4月上旬に新任職員研修を行った。</p> | <p>計画どおり実施している。 ○</p> |
| <p>⑧ 事務職員・技術職員について、高専間、国立大学法人、大学共同利用機関法人等との人事交流を引き続き積極的に推進する。《97》</p> | <p>《97》事務職員について、国立大学法人等との人事交流を引き続き実施しているが、現在は受入れのみとなっている。課題として、本校のプロパーを大学等交流先へ派遣することが困難となってきている。</p> | <p>計画どおり実施している。 ○</p> |

| 豊田高専/平成27年度年度計画 | 平成27年度実績報告(自己点検書) | 自己評価 | |
|---|--|--|----------------|
| | ⑨教職員への情報セキュリティの意思向上のため、情報システムユーザガイドラインの周知徹底と電子アンケートの確認などで研修を実施する。《98》 | 《98》情報システムユーザガイドラインを含めた今年度の情報セキュリティ管理体制等をグループウェアに掲示・周知し、全教職員が常に確認を行える状況とした。また、高専全体で実施された情報セキュリティ教育eラーニングを実施し、全教職員が受講した。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| II 業務運営の効率化に関する事項 | ①-1 一般管理費については、光熱水料の一層の縮減を検討するとともに施設環境整備委員会における環境指針の策定による省エネの促進を図る。《99》 | 《99》5月29日の施設環境整備委員会で「平成27年度 豊田工業高等専門学校の環境目的、環境目標及び取組内容」を策定した。これを踏まえた省エネへの取り組みとして、空調温度設定の徹底を図り、さらに使用実態の調査として、夏季及び冬季に各部屋の巡回を実施し、不適正な場合は、その改善を図った。また、総務会議及び施設環境整備委員会で定期的に光熱水料の実績報告を行い、さらなる省エネを啓蒙した。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| | ①-2 業務マニュアルの見直しにより、各係の業務内容を把握の上、整理を行い、人員の適正配置等を検討する。また、職員については、変形労働制の活用により、労働時間の更なる効率的活用を推進する。《100》 | 《100》業務マニュアルの見直し等により、各係の業務内容の把握に努め、適正な人員配置、有為な人材の育成及び職員の適材適所への配置を推進している。また、変形労働制のさらなる効率的な運用を検討している。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| | ②-1 平成21年度に機構本部から示された「一者応札・応募に係る改善方策について」に基づき、引き続き、契約手続きの改善を図る。《101》 | 《101》仕様内容の策定に当たっては、より多くの業者が参加ができるように努めた。また、これに加え、入札公告の期間を2週間程度は確保するように努めた。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| III 予算 | ①引き続き、外部資金(共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業等)の獲得に積極的に取組み、自己収入の増加に努める。《102》 | 《102》科学研究費助成事業の採択を向上させる一環として、外部講師による「科学研究費獲得に向けた講演会」を9月14日に実施した。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| IV 短期借入金の限度額 | (該当無し) | | |
| V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 | (該当無し) | | |
| VI 剰余金の使途 | (該当無し) | | |
| VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設及び設備に関する計画 | 1 施設及び設備に関する計画 栄生町内の職員宿舎の順次廃止及び宿舎跡地の利活用を検討するとともに、キャンパスマスタープランに基づいた整備計画を検討する。《103》 | 《103》キャンパスマスタープランに基づき栄生町職員宿舎の廃止計画及び跡地利用の検討を行い、計画通りに取り壊しを行った。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| 2 人事に関する計画 (1)方針 | 教員は、「高専・両技大間教員交流制度」を利用した交流を積極的に行う。職員は、高専間、近隣の機関(名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、愛知教育大学、岡崎統合事務センター)と積極的に交流を進める。《104》 | 《104》教員は、「高専・両技大間教員交流制度」を利用した交流を行っており、本年度は受入2名である。職員については、「高専間職員交流制度」を利用し、2月に1名受け入れた。 | ○ 計画どおり実施している。 |
| (2)人員に関する計画 | 業務マニュアルの見直しにより、各係の業務内容を把握し整理の上、人員の適正配置等を検討する。変形労働制の活用により、労働時間の更なる効率的な活用を推進する。《105》 | 《105》引き続き業務マニュアルの見直し等により、各係の業務内容を把握し整理の上、人員の適正配置等を検討している。また、変形労働制のさらなる効率的な運用を検討している。 | ○ 計画どおり実施している。 |